

なぜ EU の誕生日は 5 月 9 日なのか？

田中 俊郎

(慶應義塾大学名誉教授、ジャン・モネ・チェア、EUSI ガヴァナー)

毎年5月9日、EU構成国だけでなく、世界中でヨーロッパ・デイとしてEUの誕生日祝賀行事が行われる。1950年のこの日、フランスの外相、ロベール・シューマンがドルセイ岸にある仏外務省時計の間で記者会見を行い、「シューマン・プラン」を発表したのである。ジャン・モネの発案になる同プランは、フランスとドイツ(当時西ドイツ)の石炭および鉄鋼の資源を共同の機関の下にプールすることを提案したが、真の狙いはドイツ・フランス間の戦争を物理的に不可能にすることであった。このプランから1952年にはECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)が誕生し、1958年にはEEC(欧州経済共同体)とEAEC(欧州原子力共同体)へと発展した。

当時ヨーロッパは、小さな国内市場に分割されて経済効率が悪く、国境による障壁を撤廃し、大市場で競争を原理とする規模の経済の論理が機能する「国境なきヨーロッパ」を構築することを目指した。1967年に三共同体の執行機関などが統合されEC(欧州共同体)となり、1968年には「関税同盟」(域内関税の撤廃・共通域外関税の設定)が完成した。残った非関税障壁を撤廃するには時間がかかったが、モノ、ヒト、カネ、サービスが自由に移動できる「域内市場(単一市場)」が完成したのは1992年末であった。翌93年11月には欧州連合条約が発効してEUに発展し、現在、人口約5億人、経済規模でも米国をも凌駕する豊かな市場を形成し、独自の通貨ユーロも発行するまでにいった。

このため、EUは経済共同体だと思っている人が多い。しかし、EUで最も成功したのは「不戦共同体」による平和構築と「拡大」である。ヨーロッパのみならず世界戦争の原因となってきたドイツ・フランス間の戦争を永久に不可能にするため、紛争を、軍事的手段ではなく、ルールに基づく決定と裁判所による司法的手段で、解決することを定着させた。加盟国も、当初の6カ国から、5次の拡大を経て27カ国になり、「不戦共同体」は、冷戦時代「鉄のカーテン」の向こう側で敵対していた諸国を含めてヨーロッパ大に広がったのである。

共通外交安保政策も開始され、イラク戦争時のように内部で分裂すると、機能しないこともある。しかし、EUが、国際経済・政治・外交・安全保障のグローバル・プレイヤーとして対外的な影響力を着実に高めているのは確かである。しかも、EUが定める規則や指令は、ヨーロッパ基準にとどまらず、グローバル基準になることが多い。とくに環境の分野では顕著であり、ポスト京都議定書をめぐるダーバンでのCOP17でも本領が発揮された。

しかし、「欧州憲法条約」が2005年フランスとオランダで拒否され、その改訂版である「リスボン条約」も2008年アイルランドの拒否にあったが、やっと2009年12月に発効した。しかもその間、2007年の「パリバ・ショック」、さらに2008年の「リーマン・ショック」で経済的に大きな打撃を受け、「PIIGS」と不名誉なネーミングさえ付けられた一部のユーロ参加国は、緊縮財政政策を策定するとともに、欧州金融安定基金(EFSF)と国際通貨基金(IMF)からの財政支援が投入され、欧州中央銀行(ECB)も多額の長期資金供給オペを発動して、市場の不安を払拭することに努めた。欧州安定メカニズム(ESM)を設立する条約が2月2日にユーロ圏17国で調印され7月1日の発効を目指し、さらに財政条約も3月2日英国とチェコを除いたEU25カ国で調印され、2013年1月の発効を目指すことになった。

しかし、今年の EU の誕生日は憂鬱な雰囲気であった。すでにこれまで行われてきたアイルランド(2011 年 2 月 25 日)、ポルトガル(6 月 5 日)、スペイン(11 月 20 日)、スロバキア(2012 年 3 月 10 日)での総選挙では与党がすべて敗北していたが、5 月 6 日に行われたフランスの大統領選挙の第 II ラウンドでも現職のサルコジ大統領が破れた。同日行われたギリシャの総選挙でも大連立与党が過半数を割り、再度総選挙が行われる可能性が強く、イタリアと同様に、政治家ではないテクノクラートによって難産のすえまとめられた財政再建案と支援パッケージの実行が危ぶまれている。そして、ギリシャのユーロからの離脱さえも囁かれている。

確かに、シューマン・プランが目指した「不戦共同体」はすでに所与のものになり、「関税同盟」、「単一市場」、「ユーロの導入」でもたらされた経済的な効果も明確に見えてこない。あるのは「緊縮財政疲れ」、「統合疲れ」、「援助疲れ」、「国民投票疲れ」さえも指摘される状況である。しかも、リーダーの多くが戦後生まれの「大戦を知らない世代」であり、いかに先人たちが苦勞して一步一步積み上げてきた統合の努力を十分に理解しているとは思えない。ましてや市民にいたっては、その歴史をどこまで知っているのであろうか？

しかし、シューマン・プランを起源とし、今日の EU に具現化されているヨーロッパ統合は、それまでの国際関係にない新しい仕組みを導入し、「不戦共同体」を構築したことが、国際社会に対する最も重要な貢献である。5 月 9 日はそれを改めて想起する記念日である。